

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		地域包括支援センター運営協議会運営事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加			所属課	高齢者支援課	担当者名	大島多美子
	基本事業	50	高齢者支援体制の整備			所属班	包括支援センター班	(内線)	2118
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果	
		30	11	3	1	10504	介護保険法第115条の45	コスト削減優先度評価結果	
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度)		☐ 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	地域包括支援センターの公正・中立性の確保、円滑かつ適正な運営を図るため、次の事項について協議するため、設置されている。(1)センターの設置等に関する事項の承認に関すること(2)センターの運営に関すること(3)センターの職員の確保に関すること(4)その他、地域包括ケアに関すること 平成18年度設置を義務付ける法的根拠による。 施設代表や医師会、民生委員会等の既存の社会資源代表者と住民代表者を加えた委員構成となっており、活発なご意見を頂いている。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	年2回の会議の開催及び会議資料の作成
【主な予算費目】	報酬・費用弁償
【意見や要望】	特に聞いているいない。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
運営協議会委員改選、会議開催	会議開催
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ ア 会議開催回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
運営協議会委員	⇒ ア 委員数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
地域包括支援センターの運営が適切に行われているか協議する。	⇒ ア 会議参加委員数 人
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	
包括支援センター運営について、施設代表や医師会、民生委員会等の既存の社会資源代表者と住民代表者を加えた委員構成となっており、活発なご意見を頂き、改善を図るために設定した。	

(2) 各指標・総事業費 の推移				単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア	回		2	2	2	1	2	2	2	
	イ										
⑤ 対象指標	ア	人		10	10	10	10	10	10	10	
	イ										
⑥ 成果指標	ア	人		10	9	10	8	10	10	10	
	イ										
事業費 投入量	財源内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円	119	41	119	23	119	119	119	
		一般財源	千円								
	(A) 事業費計		千円	119	41	119	23	119	119	119	
	(A)のうち指定経費		千円								
	(A)のうち時間外、特勤		千円								
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	4	4	4	4	4	
延べ業務時間		時間	276	300	300	200	300	300	300		
(B)人件費計		千円	1,096	1,200	1,194	796	1,194	1,194	1,194		
トータルコスト(A)+(B)			千円	1,215	1,241	1,313	819	1,313	1,313	1,313	

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

0

0

0

谷志市

事務事業名	地域包括支援センター運営協議会運営事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	---------------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】	包括支援センターの運営について、様々な意見をいただくことで、業務運営改善が図れた。
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】	本年度も年2回実施し、参加者からの意見をもとに、より良い運営が図れるようになるため。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	地域資源の活用や包括支援センターのあり方等積極的な意見交換ができるような委員会としていきたい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	☐ 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	年2回の会議に要する経費を計上しており、削減余地はない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	会議の進行等正職員でなければ対応できない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	法で定められた委員会であり、介護予防を目的とした包括支援センターの運営に関する委員会であるので公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】	法で定められた介護予防を目的とした包括支援センターの運営に関する委員会であるので適正である。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

介護予防を目的とした包括支援センターの運営に関する委員会を実施することで、様々な意見を拝聴でき、センターの在り方について、検討する機会を得ることができた。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策